

1. 学校マネジメントの深化【観点II】「短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施」

事例⑤

取組実践校：佐伯市立明治小学校(児童数173名 7学級)

※学校運営協議会設置校

「学校の教育目標の達成に向けた、短期の検証・改善による授業改善の工夫」

- 年間を通じたPDCAサイクルを土台に小さいサイクルと個人・相互チェックの仕組みを構築
- 個々が取り組む授業改善の内容を具体化・焦点化
- 教科等横断的な学習の充実

PLAN

①R1・4月当初
・学校の教育目標と目指す授業像を共有
「新大分スタンダード」(めあて・課題・ひとり学び・交流・まとめ・振り返り)の徹底を確認

DO

◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用
・「授業改善ルーブリック」の結果を集計・交流

CHECK

②1学期末の検証・改善
□全員で目指す力と授業のつながりを再確認
□児童の変容・現状と取組の効果・課題、解決方途を協議
※児童の変容や取組状況を見える化し、学校内外で共有

ACTION

■「学びの主体性」を高めるために、取組を授業の「課題の在り方」に焦点化

DO

◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用
・「授業改善ルーブリック」の項目を更新
◇授業で使った「課題」を職員室内に掲示し、共有・交流

CHECK

③2学期末の検証・改善
□授業改善の進展と児童の変容・現状を重ねて分析
□次の課題や解決に向けた取組の焦点について協議
※児童の変容や取組状況を見える化し、学校内外で共有

ACTION

■「考え、伝え合う」姿を高めるために、取組を「板書の構造化」に焦点化

DO

◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用
・「授業改善ルーブリック」の項目を再度更新
◇研修等で板書写真を交流

CHECK

④3学期の検証・改善
・3学期取組と合わせ、年間取組の効果と課題を児童の変容・現状を基に分析

ACTION

⑤次年度に目指す姿・解決する課題、授業改善の重点等を協議
R2の目指す姿は①を継承し、「思考・判断・表現(書くこと)」の力を高める方向へ
↓
・国語科と生活科・総合的な学習の時間の関連を注視
・単元配列表の活用、「書いて表現すること」を重視
・次年度向けプランに反映

